

# 富士宮西ロータリークラブ会報 Rotary



国際ロータリークラブ第2620地区 2022-2023年度

RI 会長 ジェニファー・ジョーンズ

会長 矢部 英樹 幹事 石川 俊洋

朝霧アリーナより



矢部英樹会長

例会場 ゲストハウス フォレストヒルズ 例会日 毎週金曜日 月の最終週は夜間

事務所 〒418-0034 静岡県富士宮市黒田205-1 フォレストヒルズ内 公式HP <http://fujinomiya-west-rc.com/>

TEL 0544-22-8899

FAX 0544-22-7666

Mail [fujinomiyawestrotary@mountain.ocn.ne.jp](mailto:fujinomiyawestrotary@mountain.ocn.ne.jp)

## No.05 通算 1495 号 2022 年 8 月 5 日(金)

### ゲストビジターの紹介

ゲスト : なし。

ビジター : なし。

### 会長挨拶 会長 矢部 英樹 君

本日の例会におきまして、親族の血縁にて相続が発生したことで、遠方に出向いておりますので、本日の例会欠席とさせていただきますこと、大変申し訳ありません。

つきましては、石川幹事に会長挨拶を代読して戴くことを皆様ご了承ください。

本日の会長挨拶は、前回アイスクリームの歴史について少しばかり触れてみました。今回はそれに関連した身近な企業を調べてみました。

企業名は皆様も良くご存じの「シャトレゼ」です。以前は我が家の冷凍庫には雪印、森永、ロッテ、名糖等のアイスが入っておりましたが、ここ数年前からは「シャトレゼ」のアイスだけになってきております。何気なく食していた「シャトレゼ」のアイス、今回アイスの歴史について調べている時にどんな企業なのか調べてみたい衝動にかられましたので、今回はその調査したことをほんの少し皆様にも、報告させて戴きます。

現在「シャトレゼ」は日本全国に500店舗以上出店しており、アジアを中心に世界9か国にも店舗を構えております。「シャトレゼ」の原点は、1954年山梨県甲府市でオープンした、今川焼風のお菓子を販売する「甘太郎」です。当時はまだまだ、砂糖が貴重品の時代に、砂糖と素材にこだわった焼きたてのお菓子を

販売し、大人気となりました。その後に創業者の兄が「大和アイス株式会社」を立ち上げ、アイスクリームの販売に参入してきました。その後「甘太郎」と「大和アイス株式会社」は合併し誕生したのが「シャトレゼ」です。当時「大和アイス」としてアイスクリームを販売していたころ、大手企業（明治・森永・雪印・ロッテ等）との競争が激しく、中々アイスの販売経路が拡大できませんでした。そこで「大和アイス」は、大手の真似をするのではなく大手が真似のできない商品開発に乗り出しました。未だこの当時の洋風生菓子は手作りが基本で、大量生産は一般的ではありませんでした。そこで「大和アイス」が考案したのが、アイス区 R-無の生産ラインを活用したシュークリーム作りです。この当時はシュークリーム1個の相場が50円だったそうですが、あえて相場の価格の5分の1の挑戦的な価格設定で「大和アイス」はそれを1個10円と言う安さで販売し、企業の知名度を上げていったそうです。その結果、順調に売り上げを上昇させ、知名度のあるお菓子メーカーへと成長したのでした。その後工業団地に大きな工場を構えましたが、工場操業間も無く不運にも向上が火災で全焼してしまいました。其の為今迄確保してきた販売経路への商品提供が困難になることで、販売経路を全て他の企業に取られてしまい、又、最初からのスタートを余儀なくされてしまいました。其の為販売経路の確保がどれだけ会社業績の拡大に影響あるかということをしつかりと勉強されたことで、今の「シャトレゼ」の販売方法の原型となる、工場直売店の運営手法です。この工場直売型の施策は低価格と品質保持が容易になりました。

お菓子メーカーとして着実に発展してきた「シャトレゼ」ですが、2000年に再び苦労の時期が訪れます。それは、その当時いくつかの食品メーカーで原材料のごまかしや、異物混入が発覚、消費者の食品に対する目が厳しくなりました。その様な中で「シャトレゼ」も異物混入事件に巻き込まれました。このことから「シャトレゼ」は、信頼回復のために消費者のニーズに合わせた商品開発でした。食べる人の気持ちを考えて、糖質制限など健康に配慮した商品開発を徹底し、信頼の回復に繋げ再び人気を確実なものにしました。色々な苦労や逆境にたたされた「シャトレゼ」ですが、いつも不屈の精神と大胆な発送で乗り越え、常に商品に対するこだわりを忘れず、低価格と高品質の両方を実現させ、時代のニーズに常に自身を合わせていく、相手を思いやる精神がこの会社の成功の理由の一つだそうです。常に色々な角度からの発想の転換と決してあきらめない気持ち、これがどんな仕事でも大切な事と再認識させて戴きました。

2019年には創業65周年を迎え、この時には銀座に新ブランドの「YATSUDOKI」を開店し、此方も順調に店舗数を増やしております。最近では、ヨーロッパのお菓子メーカーとも提携を組んでおり、今後世界に通用するお菓子メーカーとなる勢いです。

最後に、個人の感想で申し訳ありませんが、私的に好きなアイスは、杏仁豆腐アイス、ラムレーズンアイス、牛乳ボールの以上3点です。

まだまだ暑い日が続きます、涼をとる時に「シャトレゼ」のアイスを加えてみては如何でしょうか。

### 幹事報告

幹事 石川 俊洋 君

別紙幹事報告を参照ください

### 出席報告

☆は出席免除者

	会員数	計算会員数	出席	欠席	MU	比率
今週	26	24	19	4	0	79.1%

欠席者： 渡邊奈津実 ☆外木規之 ☆仲亀秀樹  
渡辺弘光、早川英寿 矢部英樹

### スマイルボックス

- \* 貫名さん本日の卓話よろしくお願ひします。  
竹田浩富 君
- \* 8月になりました。今月もよろしく!!

若林真治 君

\* 熱中症、コロナ、気をつけて夏を楽しみたいで  
す。 大谷裕也 君

\* 赤池さん。無事で良かったです、心配しまし  
た。 後藤憲治 君

\* この暑さ、私の寝室にはエアコンが無いので毎  
晩地獄です、眠れません。 伊原謙治 君

### お祝・記念日

- 会員誕生日：渡邊奈津実 君 ( 8.8)  
渡辺弘光 (S20.8.10)
- 夫人誕生日：大谷裕也 君夫人 ちわこ様(8.10)  
後藤憲治 君夫人 たかこ様(8.11)
- 創業記念日：仲亀秀樹 君 (S50, 8, 8)  
大谷 裕也 君 (H 1, 8, 1)
- 入会記念日：竹田弘富 君 (H26 .8 .8)

### 本日のプログラム

クラブ協議会 担当 研修委員会  
クラブ会員の為の内部研修 貫名英舜君  
「RLI とは何か」

RLI (Rotary Leadership Institute)  
ロータリー・リーダーシップ研究会  
～ロータリーの21世紀に生き残りをかけた戦略ある  
いは賭け～

ロー「RLI (Rotary Leadership Institute) ロー  
タリー・リーダーシップ研究会 特にファシリテー  
ションについて」についての私論 ロータリーは時代に  
合わせて常に改革を行う。RLI は今後四半世紀にわた  
る改革プログラムだと考えるべきです。主な目標は、  
①特別な教育プログラムにもとづいて次世代のリーダ  
ーズを育成する ②このリーダーを通じて会員間に  
RLI とロータリーの基本理念の理解を進める ③ディ  
スカッションにおける合意形成の仕方としてファシ  
リテーションを採用するという3つにまとめられる  
と考えられる。今日は、なぜ、RLI なのかとい  
う点と、RLI が新しいディスカッションの  
形として提唱するファシリテーションがなぜ必要  
とされるのか、そして、この改革に対して我が富士宮  
西ロータリークラブがどのように対応していけばいい  
のか、という点にしぼって私論を述べる。ロータ  
リーの歴史は110年に及ぶ。最初期の小さな集まりの  
時代にはみんなが分け隔てなく意見を交換する場であ

った。組織として拡大し、考え方が違う会員に対して合意形成するためには、協議会型、議論と質問、承認という形で進められた。もし、決定的に意見がまとまらない場合は討論（デイベイト）し、その展示された争論において洗い出された問題点を修正し、ある一致点を見いだすという方法がとられた。

しかし、現在、ロータリーはかつての方式からの脱却を図ることが時代の要請となっている。すなわち、RI 主導型から地域的に自治権を持つ 31or32zone を持つことに移行し、また、人々の多様性重視（マイノリティ、ジェンダー、障害者、若者世代など）の時代に入らる中で、各自の意志（奉仕の理想）を活かしつつ、実践（奉仕の実践）へ結びつけるためには従来の方法では無理が来ているということである。特に、情報革命以後、SNS の発達によって、若者世代とエスタブリッシュメント世代との意志交換が難しくなっている。彼ら若い世代は、基本的に口頭での争論、ならびに争論の場をアプリオリに好まない。したがって、ロータリーが従来の意志決定の方法にしたがう限り、ロータリーに入ろうという意志を持ち得ない。

世代の交代を行うことができない社会的組織は将来性がない。どうすれば、若者にとっても意味のあり、魅力的な組織体とすることができるかという模索の中で、提唱されたのが **RLI** であるということである。

**RLI** の教育プログラムは二つ重ねになっている。一つはロータリーの知識に関して徹底的なエキスパートを生み出すシステムであり、後半はこの知識の習熟の上にファシリテーターとなるべく理論の学びと技量訓練の実施である。とても、大変で私には到底つとまらない。ロータリーはこの将来「**RLI** リーダー」となるべき人は限られた人でよいと考えている。会員 100 人に 1 人の「**RLI** リーダー」がいれば、それが中心核となって 10 年~20 年かけて周囲に影響を及ぼしていくという未来の構図を描いているのではないかと思う。

完璧に近いロータリーの知識の習得と多様性の中に割って入って行って合意形成を作り出す技量を持った人が、次の時代の「**RLI** リーダー」だということである。ロータリーはこのリーダーを作り出すことのプログラムに取り組んでいる。

## わがクラブ名誉会員である故山口裕嗣氏の葬儀について

八月六日西山本門寺塔頭浄円坊で、富士宮西 RC 名誉会員山口裕嗣（僧名亮裕 本覺院日裕上人）のご葬儀がしめやかに行われました。式中、お導師の「教訣文」の中で、山口氏が富士宮西ロータリークラブ草創に関わり、会長、ガバナー補佐の役を果たされ、当 RC が行ったラオス学校建設事業、地区で行った海外植林事業の事績が紹介されました。また、米山奨学会の事業である韓国と中国の留学生のカウンセラーを果たされたことも紹介されました。改めて、山口裕嗣上人の「増円妙道（ぞうえんみょうどう）」を祈りたいと思います。



「増円妙道」－「円妙の道を増す」と読む。法華経を修行する自行の功德が廣大無辺であること。法華系の宗派では出家の上人遷化のご回向にこの言葉を使います。遷化してお釈迦様の浄土に逝っても、そこからこの世に生きる我々に向けて尊い教を伝えて下さいと祈る言葉です